

森泉荘だより

第 14 号
H. 5. 12. 1

顧みる

永井修治

一九九三年（平成五年）も一二月、師走となり終わろうとしております。この一年、皆様には如何お過ごしでしたでしょうか。季節は、夏らしき夏も来ないまま過ぎていき、冷害による農作物への被害も大きく、特に水稲は戦後最大の凶作となりました。農業経済の困惑と、経済情勢の依然とした低迷が続いている中での年の瀬となり、生活はもろろの事、いろいろな面で慌しい年末を迎えようとしております。このような状態が森泉荘にも大きく影響を及ぼしてあります。施設運営は処遇を大事に、よりよいサービスに職員一丸となって努めております。

今年、老人福祉法施行三〇周年、老人保健法施行一〇周年と記念すべき年でありました。当森泉荘においても、開立一〇周年を迎え、聖観音の建立等、意義深い節目の年でありました。又、町内外から多くの方々が、ボランティアとして来荘して下さり、施設業務にお力添えをいただきました。九月には森吉町主催による入所者敬老式が森泉荘内で挙行されました。施設入所者、家族、職員共々深く感謝してこの次第であります。森泉荘も、いろいろな行事を計画しております。

入所者のみなさんと一緒に楽しく、行く年を明るく、送りたいと頑張っております。皆様佳き新年をお迎え下さい。来る年も、職員一同一層のサービスの実に努め、存でありますので、よろしくお願ひ申し上げます。

庄司施設長勇退

（長年のご尽力に感謝）

去る、八月三十一日付で庄司善男施設長が勇退されました。昭和六二年に二代目の事務長として、森吉町役場・総務課長から当森泉荘にいられ、昭和六三年七月一日より、富田初代施設長の後を受けられました。五年間に森泉荘の発展、的確な運営にご尽力されました。特にこの平成五年は、森泉荘も開設一〇年を迎え、多忙な年となりました。記念誌の発行、記念式典の挙行、入所されております方々の心の拠り所として、どの水月聖観音像の建立と、どれ一つとつても大変な事

終わりに、私事施設長に就任して、まだ浅い日々であります。前庄司施設長同様、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

（森泉荘・施設長）

（生活指導員）

入院から得たもの

庄司 綾子

一年の九月、腎結石の為、健康で仕事が出来るというこ
 とは、とてもありがたいと痛
 感させられました。いらだち
 時折、陣痛のような激しい痛
 みに襲われ、青ざめた顔、嘔
 吐、食欲不振が続いたが、仲
 間の家族、病院のスタッフ、
 同室の方々の励ましの言葉で
 う。どれほど救われたことでは
 同室のSさんも、同じ結石
 とか。毎日の検査、検査で、
 Sさんのいらだちが伝わって
 きます。それでも私が苦しん
 でいると、それでも私が苦し
 慢するな、看護婦さん呼んで
 けるが」と自分のことのように
 に心配し、そばに付いていて
 くれしました。そばに付いて
 病気がたさが解ったよな人
 があります。あたためて人の
 当ホームの施設長が、朝夕
 各居室をまわり、「昨夜は寒
 くなかったですか？大丈夫で

すか？今日は顔色が良いです
 ね」等々、一人一人に声をか
 けて利用者の反応は、ていね
 いにお礼を述べている人、ニコ
 ツと笑ってうなずく人、自分
 の体の不調を訴える人、意志
 反応を示さない人でも、施設
 長の心いたわる言葉は、充分
 に感じていたわる言葉は、充
 ん。こういう光景を見て、「自
 分は果たして、利用者の為
 だれだけのことをしてきたの
 だろうか」と、あらためて反
 省する毎日です。マンネリ化
 て、あたりまえのことがあた
 りまえにできないでいる今日
 このころです。初心にもどつて、まず自
 分自身の健康に注意をし、思
 いやりのある言葉で、利用さ
 れているみなさんが、いきい
 きとした毎日を送ることがで
 きるように、援助していき
 いものです。これから寒さが厳しくなり

ます。私たちも、利用されて
 いるみなさんの体調には充分
 に注意を払っておりますが、
 ご家族の皆様も、面会のおり

には、是非お声をかけて、励
 ましてくださるよう、お願い
 致します。
 (寮 母)

最大の楽しみは食事

森川 友子

一日の生活の中で、多くの
 利用者の関心が高く、待たれ
 ているものに、「食事」があ
 ります。
 自分が長い間慣れ親しんだ
 食物を口にしながら、心の安らぎ
 を感じています。心の安らぎ
 を感じて生きていく為、また
 病気を治す為には、なくては
 ならないものとして捉えてい
 る人も多くいると思えます。
 先日、ある利用者に「三度
 の食事は楽しみですか」と尋
 ねると「ええ、とても楽しみ
 です。余り間食しないでお
 いていく食べられるように心
 を配っています。」と答えて
 ました。これを聞いて、「自分
 の健康に気を配って食べてる
 人もいるのだなあ」と感心い
 ました。

高年齢の方々の中には、一日
 に三度の食事は、生きる為の
 源、健康の源として考
 えて、摂られていく方も多
 いのではないのでしょうか。
 この施設でも、食事を摂
 るのに、早い人、遅い人が居
 られると思えますが、当施設
 では、早い人が多くに思
 われます。
 もつとゆつくり食事ができ
 ないものかとか、音を立てな
 らずか、声もなく、笑いもな
 くと、食事を摂っている人
 が見ると、考えさせられるこ
 とが多くあります。
 食事をゆつくりよく噛んで
 摂る。食事を摂る「場」が利用者
 次第

※前頁※
 の心のふれあい、楽しい雰
 囲気に満ちていて、「おいし
 かった。楽しかった」と言え
 るようでありたいと考えてい
 ます。
 利用者のみなさんに「今日
 一日生きていて良かった」と
 感じてもらうため、施設全体
 を、暖かく、明るく、楽しく
 清潔な環境に整えていきたい
 と思います。

食事は本当に楽しいものに
 しなければならぬと思いま
 す。
 私たち職員の心配りが、利
 用されている皆さんに通じて
 こそ、楽しい食事だと思っ
 ておられます。
 これからも、利用されている
 皆さんに喜んでいただける
 食事を作っていきたいと思っ
 ております。

(厨房職員)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

米内沢高同筈等学校

「ふれあい体験学習」から

去る、九月二二日、二七日、二八日の三日間、当森泉荘にお
 いて、米内沢高等学校一年生の「ふれあい体験学習」が行われ
 ました。その時の感想(レポート)や、手紙が米内沢高等学校
 より届けられましたので二点ご紹介いたします。

私は、あまり老人ホームに
 は、行きたいと思ったことが
 今までありませんでした。
 今回は希望者だけでなく、
 全員参加なので、行くしかな
 いという考えで参加したこと
 になりました。
 はじめは老人の方も、私た
 ちも、ちよつと遠慮がちで、
 話しをされている人もほとん
 どいませんでした。昼食が終わ

て、一人のおじいさんに話し
 かけてみました。すると嬉し
 そうにニコリして、私たちが
 を部屋まで案内してくれまし
 た。そして、私たちに菓子を
 くれたり、歌まで歌ってくれ
 したり、歌まで歌ってくれま
 した。そして掃除の時間なの
 で行くとした時、「終わって
 たら、すぐこいな」と言っ
 てくれてうれしかったです。

◆ ◆ ◆
 その後も、折り紙をしたり
 して遊びました。帰る時にな
 ると、名前を覚えてくれて、
 すぐくうれしかったです。
 帰る時には、来た時と全く
 違う気持ちで帰れてよかつた
 です。絶対に、またいつか行
 きたいと思いました。
 (女子)

◆ ◆ ◆
 自分にとつて、今回ほどた
 めになった経験はなかつたと
 思います。
 「森泉荘」で、じいさん、
 ばあさんと対面する時は、過
 去何回か「見舞い」という事
 で、行った事があります。事
 「お世話する」という立場で
 訪れたのは今回が初めてです。
 その日はちょうど誕生会の
 日とあたつて、我らは誕生会
 に出席した。テーブルを並べ
 老人たちをホールまで運ぶ。
 最初はじいさんばあさんも、
 自分たちも戸惑つていました
 が、時間が経つにつれて、緊
 張がほぐれた。ここで、一番
 ドキドキしたことが、おじい
 さんに、僕が当たつてしまつた。
 男一人、後は女子で、すげえ
 やだつたけど、相手をした。
 寄延のおじいさんに、おかせ
 やいろいろおじいさんのを食

るのに苦労したけど、時々、
 「じつちやんうめが？」と聞
 くといっぱい微笑んでくれた。そ
 のとき、涙が出そうだった。実
 あかの他人でありながら、接
 際は祖父と孫という形で、周
 触ってきたと思つていました。
 りの人達に「あなた、どうい
 うのやつたことあるの？うま
 いよ」つたことあるの？うま
 うれしくつた。じいちゃんも
 喜んでくれた。心の中は「幸
 せ」つた感じがした。
 と時間がなかつたから、もつ
 と接触して、お世話したかつ
 たけど、それが少し、心残り
 です。でもこれで、自分の意
 志がはつきりしました。無理
 一〇〇%だけ、福祉の学校
 で、このように体験を生かして
 もつと福祉を学びたい。もつ
 と自分より弱い老人や、障害
 者たちを守る立場になりました。

(男子)

◆ ◆ ◆
 三二名の生徒さんから、手
 紙や、感想のレポートをいた
 だきました。森泉荘での一日
 が、よい体験としていつまで
 も、心の片隅に残つてますよ
 うに。
 みなさん、全員の感想を紹

